

# ことわざチェックシート

(1)まずは、左側のことわざを見て(右側をかくし)、自分なりに意味を説明できるようにしましょう。  
(2)次に右側の文章を見て(左側をかくし)、それが示すことわざが何であるか言えるようにしましょう。

悪事千里を走る  
頭隠して尻隠さず  
虻蜂(あぶはち)とらず

雨降って地固まる  
案ずるより生むがやすし  
石の上にも三年  
石橋をたたいて渡る  
急がば回れ  
一寸先は闇  
一寸の虫にも五分の魂  
犬が西むきや尾は東  
犬も歩けば棒に当たる  
井の中の蛙大海を知らず  
岡目八目(おかめはちもく)  
鬼の居ぬ間に洗濯  
帯に短したすきに長し  
溺れる者はわらをもつかむ  
蛙の子は蛙  
河童(かっぱ)の川流れ  
禍福(かふく)は糾える縄のごとし  
枯れ木も山のにぎわい  
口は禍(わざわい)の門  
= 口は禍の元

けがの功名  
光陰矢のごとし  
郷(ごう)に入っては郷に従え  
弘法筆を選ばず  
紺屋の白袴(こうやのしろばかま)  
三人寄れば文殊の知恵  
鹿を追う者は山を見ず  
地獄の沙汰も金次第  
釈迦に説法  
好きこそもの上手なれ  
過ぎたるはなお及ばざるがごとし  
雀百まで踊り忘れず  
立つ鳥跡を濁さず  
棚からぼたもち  
玉磨がざれば光なし  
月とすっぱん  
月夜に提灯  
出る杭は打たれる  
灯台もと暗し  
とらぬ狸の皮算用  
長いものは巻かれる  
泣き面に蜂  
なくて七癖  
情けは人のためならず  
七転び八起き  
人間は考える葦である  
盗人に追銭  
糠に釘(ぬかにくぎ)  
猫に小判  
能ある鷹は爪を隠す  
花より団子  
人の口に戸は立てられぬ  
人を見たら泥棒と思え  
百聞は一見に如かず  
仏の顔も三度  
まかぬ種は生えぬ  
待てば回路の日和あり  
もちは餅屋  
藪をつついて蛇を出す  
寄らば大樹の陰  
来年のことを言えば鬼が笑う

悪い評判やうわさは、あっと言う間に遠くまで広まってしまふ。  
欠点や悪事のほんの一部だけを隠して、全部隠したつもりになっている。  
欲ばりすぎてかえって損をする。二つのことをねらってどちらも失敗する。  
二兎(にと)を追う者は一兎をも得ず  
面倒なことが起こった後はかえって物事がうまく収まることもある。  
取り越し苦労をせず思い切ってやってみると、案外簡単にできて結果も良い。  
辛抱すれば必ず成功すること。冷たい石も三年も座り続ければ暖まるという意味から。  
用心に用心を重ねる。堅い石の橋さえたたいて渡るほど慎重なこと。  
物事は、一見遠回りに見えても着実な方法をとるほうが早く目的を達成する。  
将来のことはほんのわずかの先のことですえ、全く予想できない。  
どんなに小さく弱い者にも、意地や思慮があるのだからあなどってはならない。  
当たり前で分かり切ったこと。当然のことを得意げに言う者への皮肉でもある。  
積極的に行動していれば何か良いことがある。行動を起こさなければ幸運にはめぐり会えない、の意も。  
視界や見解が狭い。井戸の中に住んでいる蛙は大きな海を知らないことから。  
当事者よりもはたで見ている第三者のほうが、冷静で正しい判断ができる。  
うるさくて、こわい人のいない間に、羽を伸ばしてくつろぐこと。  
中途半端で役に立たないこと。帯にするには短すぎるし、たすきするには長すぎるという意味から。  
困ったときにはどんな小さな者にもでも助けを求めたくなる  
凡人の子はやはり凡人であること。また、子供は結局親に似てしまうことも言う。  
得意な分野でも思わぬ失敗をすることがある。  
人生、良いことと悪いことが代わる代わるめぐってくる。良いことだけでも悪いことだけでもない。  
つまらないものでも数に加えておけばよいまし。枯れた木でも山の景観をにぎやかにはしてくれる。  
自分の不用意なひとことが禍を招くことがあるから注意せよという戒め。

失敗が思いがけなく良い結果をもたらすこと。  
月日の過ぎ去っていくのが極めて速いこと。「光陰」は「月日・歳月」の意味。  
別の土地に行ったら、自分のやり方を主張したりしないで、その土地の風俗や習慣に従ったほうがよい。  
真の名人は道具を選ばない。弘法大師はどんな筆でも見事な字を書いた。  
専門家が他人のことばかり考えて、自分自身のことがおろそかになること。  
何人が集まって頭をひねれば、凡人でも良い思案が浮かんでくる。  
目前の利益を得ることに集中して他のことが目に入らず、そのためにものの道理を失ってしまう。  
金の力で何でも思い通りになること。地獄の裁判さえも金の力で自由にできるという考えから。  
考えたり説明したりする必要がないこと。仏教の開祖である釈迦に仏法を説くようなものだという事。  
好きなことは必ず上達する。好きなことには一生懸命取り組むから。  
行きすぎ、やりすぎは、足りないのと同じだ。何事も適度が肝心だと言うこと。  
幼いときに習慣として身につけたことはどんなに年をとっても改められない。  
居た場所を去るときは、後始末をし、見苦しくないようにしておくべきだ。  
何の努力もなしに、思いがけない幸運に出会うこと。  
優れた才能も、修養を積まなければものにならない。  
形は似ていても差がありすぎて、二つの物が比べ物にならないこと。  
むだなことのとえ。月の明るい晩には提灯は不必要であることから。  
人より抜きんできると、ねたまれて、恨みを買ったり、避難されたりする。  
あまりに身近なことなので、かえって気づきにくいこと。  
利益が手に入らないうちから、それを当てにしてあれこれ計画を立てること。  
力のある者には逆らうな。権力には従ったほうが無難だということ。  
悪いこととうえにまた悪いことが重なること。  
だれにでも多かれ少なかれ癖があるものだという事。  
他人に親切にすることは、結局は自分のためになるのだということ。  
何度失敗してもへこたれないこと。人の世の浮き沈みの激しいことのとえでもある。  
人間は自然界では一本の葦のように弱い存在だが、考える能力を備えた唯一の存在である。  
損をしたうえに損を重ねること。盗人に物を奪われたうえに、さらに金銭を与えてやる意味から。  
いくら忠告しても効果がないこと。全く手応えがない  
どんなに立派な物も、その価値のわからない者には何の役にも立たない。  
真の実力のある者は、むやみにそれを外にひけらかしたりはしない。  
風流よりも実利を好むこと。風流やおもむきを理解せず、現実的である様子。  
他人が話すうわさや評判は、止めることができない。  
他人を簡単に信用してはいけない。泥棒と違ってかかるくらい用心深くせよ。  
話だけ何度聞かなくても実際に自分の目で確かめたほうがはるかによくわかる。  
どんなに人の良い優しい人も、無礼が何度も重なれば、ついには腹を立てる。  
何もしないで良い結果が得られるはずがない。  
じっと辛抱して待っていれば、必ずチャンスがめぐってくる  
何事もその道の専門家に任せるのが最も確かであること。  
ほっておけば何事もなくすむのに、余計なことをして、自分から災いを受けること。  
頼りにするなら、大きなもの、ちからのあるものに頼ったほうが、安心で得である。  
将来がどうなるか、先のことを口にするのはばかげている。